

個人山行報告書

通算山行NO	NO. 1295	報告者	後藤隆徳
年月日	2007年10月20日~21日	2万5千	甲斐駒・仙丈
山名	駒ヶ岳神社~黒戸山~甲斐駒ヶ岳(2967m)~北沢峠		ヶ岳・長坂上条
体力度=4・やや厳しい 技術度=4・やや難しい 藪漕度=ない 道標=ある トイレ=七丈小屋 展望度=360度の展望 三角点名=甲斐駒ヶ岳 等級=一等三角点			
<h2>黒戸尾根は古典的ないい尾根だ</h2>			
コース とタイム	1日目=下土狩5:00-竹宇駒ヶ岳神社発8:00-七丈小屋14:10(テント泊) 2日目=七丈小屋7:00-甲斐駒ヶ岳9:20~10:20-駒津峰11:30 -仙水峠12:53-北沢駒仙小屋14:04-北沢峠バス停14:25-広河原15:15-芦安駐車場16:30-芦安温泉「岩園館」-長泉21:00		
標高差	上り=竹宇駒ヶ岳神社770m~七丈小屋2380m=約1610m =七丈小屋2365m~甲斐駒ヶ岳2967=602m 下り=甲斐駒ヶ岳2967m~北沢峠2035=932m		
参加者	黒戸隊=後藤隆徳、河野光江、世古悦子=ほか12名 北沢隊=近森正彦、中村圭吾=ほか8名 合計=25名		

10月20日(土・快晴)

2004年年末、坊主尾根以来の甲斐駒だった。北沢峠から上る10名に見送られ15名で竹宇駒ヶ岳神社発。平均年齢は48歳。皆さん元気はいい。私を含め3名はテント泊だが、荷物は重く感じない。このところの歩荷訓練効果か。

小屋泊は七丈小屋。実はこの小屋既に宿泊者用の食料はなく、素泊のみ可能。昨日は低気圧が通過し、山は本格的な降雪で、中央高速から眺める駒は真っ白だったが、まあ大丈夫だろう。下部はまだ紅葉が真っ盛りで、綺麗な青空をバックに山々は爛々と燃えていた。

特に問題もなく黒戸山を越え、五合目に達した。以前ここにあった小屋は片付けたようで、更地になっていた。裏の大岩に小屋番だった「古屋義成」氏のレリーフがあった。昔2~3回、会ったことはあるが、厳しい感じの印象が残っている。黒戸尾根はここから本格的な山



テントから鳳凰三山・地藏岳を見る

りとなる。梯子・鎖が要所要所に設置してある。直角に近い梯子はあなどれない。ここをこなせば七丈小屋は近い。思ったより早く到着。

空を見上げると何か飛んでいる。「蜘蛛飛び現象」だった。皆は初めての体験。大いに感動したようだ。

10月21日（日・快晴）



低気圧が抜け冬型の気圧配置になった。山は一晩中、風がゴォーと鳴り響いた。朝はこぼしたお湯がすぐ凍る気温だった。夕べは小屋泊の何人かが遊びに来た。気持ち良く飲んだ性か、今朝は全く寒さを感じなかった。

朝方風はあったが天気は快晴。北沢隊と頂上で合流タイミングがあり、やや遅い出発。霜柱をザックザックと踏みしめ上る。八合付近から右手の北面には雪・氷が存在するが問題はない。左手には赤石沢奥壁が大きい。ダイナミックな光景に一同感嘆。若い人にはこの「感動」を今後の活動に繋げて欲しい。

九合で一箇所岩・氷・雪の悪い所がありザイルをフィックス。下りの場合はイヤな感じだ。頂上の祠が見えて来た。登山で一番いい時間帯。恍惚を感じる時だ。頂上は無風快晴。360度の展望。空は

どこまでも澄み切っている。なかなかこんな天気にはめぐり合えない。

北沢隊が今、摩利支天峰を横断して頂上に迫って来た。今日だけの行程は北沢隊のほうが上りの標高差は多い。やがて30分後、ゾロゾロと全員頂上に立った。近ちゃん、中村さんは元気いっぱい。少し「物足りなかった？」とか。

仙水峠に下山。駒津峰からの駒は立派で美しい。思えば36~7年前、初めての冬山と岩壁登攀がここだった。嵐の中、摩利支天峰・南山稜と水晶沢を上った。

仙水峠は紅葉が素晴らしい。いつもの「天カラ」（天然の唐松）は元気。仙水小屋に寄る。ここの主人はちょっと問題児？女性にトイレを貸してくれない。ビアは売らない。写真は撮らせない。敷地に入らせない。国立公園から土地を借りて営業している意識がないようだ。

今日は会の夜叉神峠バスハイク。峯さんに電話したが通じなかった。残念。



25名の甲斐駒

